

報道関係者各位

EBI-2016-032

2016年6月10日

株式会社イーブックイニシアティブジャパン

eBookJapan 独占企画 特別冊子『帰ってきた漫画サンデー』を無料配信
「ここで終わってもよかったかも…」 「自分でいま読んで面白い」
惜しまれつつ休刊した『漫画サンデー』連載陣が当時を振り返る…！

マンガ No.1 (※1) の電子書籍販売サイト「eBookJapan」を運営する、株式会社イーブックイニシアティブジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小出斉（こいでひとし）、以下 eBookJapan）は、株式会社 実業之日本社（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：岩野裕一（いわのゆういち）、以下実業之日本社）が2017年に創業120周年を迎えるにあたり、50年以上刊行していたマンガ雑誌『漫画サンデー』の連載作家陣が当時を振り返る特別冊子『帰ってきた漫画サンデー』の無料配信を開始いたします。あわせて、『漫画サンデー』関連作品13タイトル372冊を各30%OFFのセールや購入者へのプレゼント企画を実施いたします。

◆キャンペーンページ URL

<http://www.ebookjapan.jp/ebj/special/st/mangasunday.asp>



『帰ってきた漫画サンデー』表紙



『帰ってきた漫画サンデー』【記憶に残る一場面】

◆『帰ってきた漫画サンデー』より『静かなるドン』新田たつお先生のコメント

作品の中で、ここで終わっても良かったかも…と気に入っているシーンがあります。

54巻の「影が重なる時」で静也と秋野が手をつなぐところ。絵的にも物語的にもうまくいったと思っています。ここが『静かなるド

【本件についてのお問い合わせ先】 株式会社イーブックイニシアティブジャパン 広報担当：木元

TEL：03-3518-9544 FAX：03-3518-9131 MAIL：pr@ebookjapan.co.jp

』の分岐点。この後、ピエロが現れるシーンからアレキサンダー編が始まり、第2エンジンがスタートしました。いちばん脂がのっていた時期で、描いていて楽しかった。自分でいま読んで面白いですね。

『帰ってきた漫画サンデー』は新田たつお、本庄敬、渡辺みちお、花小路ゆみ、香川まさひと、ひじかた憂峰、ふくしま政美、いがらしみきお、成田アキラ、笠太郎といった漫画サンデーの歴史を彩った作家陣からのコメント、『静かなるドン』の企画を立ち上げ、後に7代目漫画サンデー編集長を務めた上田康晴氏のロングインタビューなど750ページを超える特別冊子です。

誌で、財界人の動向を追っていた筆島正行さんが、娯楽誌としての誌を創りました。当時の話を聞くと、ボーンが出なかつたり、必ずしも儲かっていた会社は、社長の状況や何となく閉鎖し、起死回生の策として、これまでの女性向け雑誌『新女性』を止め、新たな娯楽誌の創刊に踏み切ったようです。

1959年8月に漫画初の週刊誌「マンガサンデー」は産声を上げるのですが、当時、有力出版社が発行している漫画雑誌に『文芸漫画』、『文藝春秋』があり、しかし、『文芸漫画』は発行していた文藝春秋社の編集局長・池田（信平）さんから漫画の週刊誌は成り立ちにくい、理由は、今の人気漫画家は、月刊誌にも原稿が間に合わないくらい忙しいので、そんな漫画家の原稿料が高くなりすぎるので、その高い原稿料を維持しながら定価の安い週刊誌は採算を取りにくいと言われたようです。編集陣の友情として、心配しての助言でしたが、雑誌記者として働いた池田さんの言葉だけに、筆島さんの目も揺らいだようです。

そんな筆島さんを鼓舞したのは、近藤（日出造）先生で、近藤先生は漫画集団（戦前は新漫画派集団）の中心の



「静かなるドン」初代編集長兼第7代編集長
上田康晴 ロングインタビュー
「わが青春の『漫画サンデー』」
「マンガサンデー」の歴史を振り返る

存在で、池田さんの言葉に「他人は何ともいえない。漫画雑誌が成り立つか、成り立たないかはアイデア、プラン次第、アイデアと、漫画家はアイデア商売だから、いくらも助ける」と背中を押してくれたようです。

「歩く歴史家」な筆島は、初期マンガサンデーの大ヒット企画ですが、これを発案したのは近藤先生だった。日劇三ツツツホテルの楽屋や、若者層に人気の話題の場所、人物に会い、語り、世相を浮き彫りにする企画で、当時としては斬新で画期的な企画でした。

そんな筆島さん、マンガサンデーは、ナメケ漫画雑誌の柱にしながら、読み物の面でも、山田風太郎先生の『三平の身の下相談』があり、20年間理もれた戦中秘話と題した特集記事もありました。昭和犯罪史ともも戦中秘話とも呼ばれる『10大犯罪。切の報道が禁止された今日の一般に知られていない事件の真相は？』といった週刊新報の「罪の報告書」を彷彿とさせるリードなどを見て、色々と欲を扱ったキャンパスな記事とエッセイ系漫画が絶妙にマッチした感があったと語ります。

そんな筆島さんと、ほとくの接点は週刊小説時代で、1977年には、週刊小説編集部に入社した。

創刊から54年の歴史を持つ「漫画サンデー」が、惜しまれつつ休刊して早3年。その後「ヤングチャンピオン」(秋田書店)「別冊漫画ゴラク」(日本交社)など名だたる青年誌が休刊しています。「帰ってきた漫画サンデー」と題した本誌では「静かなるドン」の企画を立ち上げ、初代担当編集長として、また、第7代「週刊漫画サンデー」編集長として、殊腕を振った上田康晴さんに当時の思い出、現在の漫画業界への思いを明かしていただきました。

**「漫画サンデー」が生まれる前
筆島正行編集長の苦闘**

実業之日本社という堅い名前の会社に漫画誌があることに驚きます。

上田康晴(以下、上田) 実業之日本社という社名が示すように、経済誌やガイドブック、実用書などの一般書籍が本社の本道という感じ。週刊漫画サンデー(以下、マンガサンデー)や週刊小説などの娯楽誌は、会社の本流とは異なる感覚でした。もともと「実業之日本」という経済

『帰ってきた漫画サンデー』中面

また6月10日(金)～6月23日(木)の期間限定でeBookJapanにて発売中の『静かなるドン』や『湯けむりスナイパー』、『まるごし刑事』など往年の名作13タイトル372冊を各30%OFFにて販売いたします。

さらに、このキャンペーン期間中、対象作品を1冊以上ご購入いただいたお客様の中から抽選で35名様に「静かなるドン」記念切手やDVD作品「静かなるドン 新章 Vol.1&2 セット」など漫画サンデーグッズの当たるキャンペーンを実施いたします。この機会にぜひ漫画サンデー作品に触れてください。

◆あの漫画サンデーが帰ってくるキャンペーン 概要(期間:6月10日(金)～6月23日(木))

- ・特別冊子『帰ってきた漫画サンデー』の無料独占配信
- ・『帰ってきた漫画サンデー』掲載13タイトル372冊を30%OFFで販売
- ・『帰ってきた漫画サンデー』掲載8タイトル26冊をポイント10倍で提供
- ・対象作品の購入者に「漫画サンデー」グッズを抽選の上、プレゼント

◆『漫画サンデー』とは

『漫画サンデー』は実業之日本社が1959年に創刊し、2013年に通巻2795号をもって惜しまれつつ休刊したマンガ誌です。大人向けのエンターテインメント漫画誌として週刊マンガ誌の礎を築き、その歴史は54年にも及びます。手塚治虫、園

【本件についてのお問い合わせ先】 株式会社イーブックイニシアティブジャパン 広報担当: 木元

TEL: 03-3518-9544 FAX: 03-3518-9131 MAIL: pr@ebookjapan.co.jp

山俊二、福井英一、谷岡ヤスジなどの大物作家の連載に加え、近年では、95年にドラマ化、コミック累計販売数4400万部突破した『静かなるドン』（新田たつお）、2009年にドラマ化した『湯けむりスナイパー』（作画：松森正 原作：ひじかた憂峰）など、数々の話題作が連載されていました。

eBookJapanは今後も多くの電子書籍作品と出会い、楽しんでいただけるような企画を用意してまいります。

■ eBookJapanの主な特長

- ・世界最大級のマンガ作品数をはじめ、46万冊を超える“充実のラインナップ”
 - ・購入した作品は複数端末（*）で楽しめ、My本棚は“背表紙表示”も可能
 - ・手軽なブラウザでも、ダウンロード後はオフラインでも楽しめる“高画質リーダー”
- * WindowsPC、Mac、iPad/iPhone/iPod touch、Androidに対応。

■ 株式会社イーブックイニシアティブジャパンについて

2000年に「SAVE TREES!」を合い言葉に創業した電子書籍業界の老舗です。2011年に東京証券取引所マザーズ市場に上場、2013年に東証一部へ市場変更。（コード：3658 “365日ハッピー”）

コーポレートサイト：<http://corp.ebookjapan.jp/>

電子書籍販売サイト：eBookJapan (<http://www.ebookjapan.jp/ebj/>)

※1 有料電子コミック利用者の「電子コミックの購入先」（複数回答）において最も利用者の多い電子書店となりました。

出典：インプレスR&D インターネットメディア総合研究所「電子コミックビジネス調査報告書2012」3.5.2 電子コミックの購入先（P.76）